

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成28年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

| 番号 | 研究名 | 研究代表者 | 評価 |
|---|---------------------------------|-----------------|----|
| 28-9 | 市町村のニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発 | 愛媛大学 教授 氏家 勲 | B |
| <p><研究の概要></p> <p>市町村の橋梁点検において、狭小橋梁の点検に伴う通行規制、および点検時の損傷見落とし等が課題となっている。本研究ではこれら課題の解決のため、通行規制を伴わない近接装置および点検支援システムを開発し、狭小橋梁の点検の迅速化、高精度化を同時に達成することを目指す。</p> <p><中間評価></p> <p>研究の進捗状況は概ね順調であり、研究成果の見通しがある程度期待できることから、指摘事項に留意しつつ、システム全体としての地方自治体での実用可能性や課題を明らかにした取りまとめに向けて、現行のとおり推進することが妥当と評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIによる結果、そのロジックが現象理解と一致しているのか、データが少ないことによる不確実性も含めた検証が必要である。 2. 損傷や劣化が自動検出できた例だけでなく、検出できなかったケースのデータも蓄積し、より実際に使えるシステムを開発していただきたい。 3. 小さな市町村には専門技術者がいない場合もあり、そのような自治体でも使えるユーザーフレンドリーなシステムとしていただきたい。 4. AIについて、適用の限界等を明らかにしたうえで、利用上の留意事項を明確にしていきたい。 5. 自治体職員自身が提案するシステムを用いて全工程を点検できている事例を紹介していただきたい。 6. ひびわれ自動検出の精度を評価する方法論を明らかにしていただきたい。 7. 実際の作業を想定した継続的な改良が必要である。 | | | |

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。